

加齢による目の病気と変化

加齢にともない発症しやすい目の病気はもちろん、
病気ではない加齢現象にも注意を

歳だからと決めつけないために、
まず加齢による目の病気を

日頃の外来診察で、かゆいだけ、または充血だけでも「歳だからね」と決めつけてしまう患者さんがいます。ひとりで「歳だから」と決めつけず、加齢で起きてくる代表的な目の病気を簡単でよいので知っておきましょう。ここでは代表的な5つの病気を紹介します。

- ①モノが歪んで見えたら、黄斑上膜などを疑いましょう。70歳代を中心に増える疾患で、網膜の表面に透明のセロハン状の膜が余分に張ってきます。軽症の場合、自覚症状はないのですが、進行すると視力低下とモノが歪んで見えてきます。手術して膜をはがすことになる場合があります。

をみていてよいものと、網膜剥離や眼底出血・硝子体出血などの恐ろしい病気の場合があります。

- ③真ん中が歪んだり暗くなったりしたら、加齢黄斑変性を疑いましょう。一番見たいと思う部分が見えにくくなってしまう、放置すると失明の危険性もある病気です。自覚症状が出た方は、すぐに眼科を受診しましょう。早ければ治療の効果が出る場合もあります。古いものは、治せません。
- ④高血圧の方で短期間に視力が極端に悪くなったら、網膜静脈閉塞症（もうまくじょうみやくへいそくしよう）を起こしているかもしれません。50歳以上の方で高血圧の方に発症しやすい病気です。網膜の血管が詰まって、血液が流れなくなる病気で、眼底出血や網膜のむくみを起こします。視力が下がるので、すぐに受診してください。
- ⑤糖尿病なら、自分では気づかない糖尿病網膜症（とうにょうびょうもうまくじょう）に注意してください。

糖尿病が原因で、目の中の網膜が傷つき視力低下する病気です。眼科医の診察でしか判断はつきません。痛い・かゆい・充血・メヤニなどの症状は出ませんが、糖尿病がある方は、必ず眼科で眼底検査を定期的に受けてください。

病気ではない加齢現象も
手術や治療により改善が可能

- ①白内障は、水晶体が加齢で白や茶色に濁ってくる変化です。早い方で40歳頃から始まり、60歳代では、ほぼ全員が白内障になっています。病気ではないので効果的な治療薬はありません。失明する病気ではないのですが、視力が下がると、日常生活が不便になり、歩行の安全性にも影響してきます。足腰が丈夫なうちに、つまり杖が必要になる前に、視界を良好にしておく歩行が安全です。現在では短時間で安全に手術ができるようになりましたが、目の中に手を加える手術ですので、まずは熟練した医師に相談するとよいでしょう。
- ②老人環（ろうじんかん）は、角膜（くろめ）の上方から始まり、白く黄色の輪状の混濁が出てきます。肉眼で見えるので、これを白内障と勘違いする方が多いです。老人環は、表面の脂質の沈着なので、視力低下など目にとって不都合なことは起こさないの心配は、いりません。

- ③眼瞼下垂は、加齢により皮膚のハリがなくなり、まぶたの皮膚もすっかり弛（たる）んで、上まぶたが下がって起こります。視界を邪魔するときは、皮膚を切除して縫い縮める手術を受けることで、まぶたが開きやすくなります。

以上、加齢による代表的な目の病気と変化を述べましたが、もっとたくさん目の病気や加齢現象があります。「症状がないから問題ない」とか「歳だからしょうがない」と、決めつけしないで、日常生活において、人間が得る情報の8割以上は目からの情報なので、目を大事にして、気軽に眼科で定期検査を受けましょう。

解説します



藤岡眼科
副院長
藤岡 聖子氏

先生のプロフィールはP28へ